「人間力を育む千葉ＥＳＤの地域展開」における グローバル人材育成

Development of Global Leaders Starting at Local Level in Chiba-ESD

千葉大学教育学部教授　伊藤　葉子

千葉大学教育学部准教授　辻　耕治

ITO Yoko
(Professor, Faculty of Education, Chiba University)
TSUJI Koji
(Associate Professor, Faculty of Education, Chiba University)

キーワード：グローバル人材育成、留学政策、ESD、コンソーシアム、千葉

１　千葉大学教育学研究科・教育学部におけるグローバル人材育成をめぐる動向

本論では、千葉大学教育学研究科・教育学部で「人間力を育む千葉 ESD の地域展開」におけるグローバル人材育成をどのように進めているのかを紹介し、グローバル人材育成についての発展的議論のための一資料を提示することとする。

「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development=以下 ESD)」は、「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすこと」と定義されている[1]。この「人間力を育む千葉 ESD の地域展開」事業は、文部科学省の「平成２７年度ユネスコ活動費補助金・グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」として採択されたものである。この事業を展開するにあたり、千葉大学教育学研究科・教育学部でのグローバル人材育成についてのこれまでの動向を示したい。

まず、グローバルキャンパスとして発展を目指している千葉大学では、教育学研究科・教育学部を中心に ASEAN の連携大学と協働で、千葉大学の大学院生および大学生が行っている科学技術研究を彼ら自身が ASEAN の高校生へプレゼンテーションを行う事業（大学の世界展開力強化事業；ツイン型学生派遣プログラム（TWINCLE）[2]）を 2012 年より実施している。このプログラムでは、千葉大学教育学

[1] 国連「環境と開発に関する世界委員会（ブルントラント委員会）」報告書『我ら共通の未来（Our Common Future)』（1987 年）
[2] http://www.twincle.jp/

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

研究科所属の大学院生・教育学部生と、理学、工学、園芸学研究科・学部などの他研究科・学部の大学院生・学部生の 2 者が協働し、千葉大学が世界に誇る先端研究を高等学校において展開可能な授業へと開発していく。そして、この授業および教材を英語化し、本学 ASEAN 拠点大学コンソーシアムと連携する現地高等学校において本学の大学院生・学生が授業を実施することにより、ASEAN の日本ファンを育成すること、及び、大学院生・学生がグローバル人材としての能力を獲得することを目的としている。

また、ESD に関する研究推進として、「感性」という新たな知性をはぐくむ教育、つまり「感性に働きかける ESD 教育」に取り組んできた（神野ほか 2013）。これは、2011 年の東日本大震災を機に、教育関係者のなかで、自らの五感を頼りに情報収集し、判断し、自らの行動を選択する根源的な「生きる力」の大切さを再認識したこととつながっている。特に、この研究においては、美術・音楽科の「感性」教育に関する知見を、家庭科の生活全般を見渡す視点に重ねあわせて実践的に ESD を展開したことが特徴だと言える[3]。この研究のグローバルな展開としては、2014 年 11 月に ESD 世界会議国際ステアリング委員会のチャールズ・ホプキンス教授を招いてシンポジウムを企画し、グローバルな研修・交流も実施した。加えて、2014 年 11 月には ESD に関するユネスコ世界会議の一環として、岡山市において開催された国際教師教育ネットワーク（International Network of Teacher Education Institutions）で、日本の取組みとして紹介し、世界各国から集まった教育関係者に高く評価された。なお、小学校での取り組みは Ito and Nakayama（2014）により論文として集約され、報告されている。

２　「人間力を育む千葉ＥESD の地域展開」事業の概要

大学でグローバル人材育成をすすめることは、喫緊の教育課題だと言えるが、前述したとおり、千葉大学教育学研究科･教育学部では､すでにグローバル人材育成に関する取り組みが進められており、これから述べる「人間力を育む千葉 ESD の地域展開」事業はこのような背景を基盤として企画されたものである。本事業を取り組むにあたり、以下の視点から構想した。

①ユネスコスクール、ユネスコ協会、教育委員会、社会教育施設、企業などと連携して、千葉大学（教育学部）が中心軸となり、「千葉 ESD コンソーシアム」を形成する

②コンソーシアムにおいて、「教育のエンパワーメント」「コミュニティーの再生・発展」をはかるとともに「未来のグローバル人材育成」を進めていく

③人間力として、「グローカルマインド」「サイエンスマインド」「環境マインド」に焦点化し、その醸成につとめる

①に関しては、千葉大学教育学部は、千葉県や、千葉市をはじめとする他の市の教育委員会と共

[3] 科学研究費助成事業　基盤研究（C）「芸術教育による感性に働きかける ESD の構築～代替案の思考能力の育成～　研究代表者　神野真吾　課題番号　24531103

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

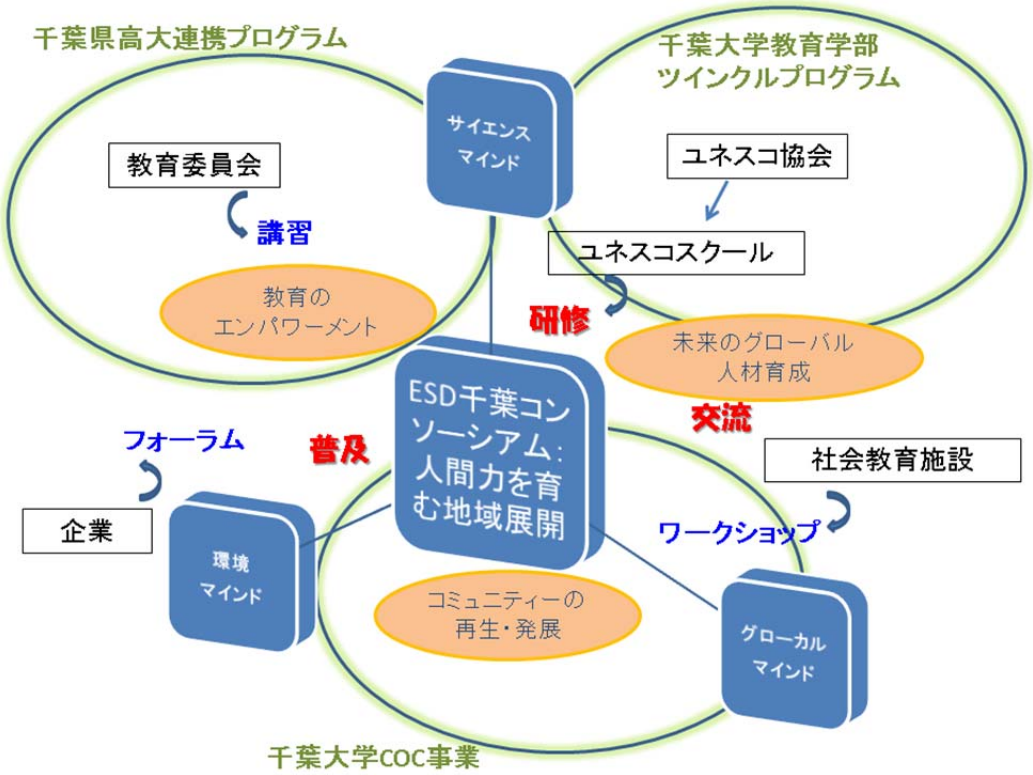
働関係にあり、各種講習会や高大連携校との交流などを通して、教員研修を進展できる土壌を耕してきた。また、千葉県は県単位のユネスコスクールの強いネットワークが千葉県ユネスコスクール連絡協議会および各市ユネスコ協会により築かれているとともに、2014 年のユネスコスクール世界大会高校生フォーラムに県内の 4 高校が参加するなどの実績が、コンソーシアム形成の基盤となった。社会教育施設としては、千葉県の公民館との連携をはかるために、千葉県公民館連絡協議会にコンソーシアムの一員となってもらった。企業との連携については、千葉県内の 4 社、すなわち（株）千葉銀行、（株）諏訪商店、（株）協同工芸者およびビィー・トランセホールディングス（株）、さらに 2015 年 3 月 31 日現在で千葉県内の企業 996 社が加盟する（一社）千葉県経営者協会をコンソーシアム構成員とした。

この①で構築したコンソーシアムを活用して、②を展開した。

③に関しては、グローバルな観点を見据えながら地域（ローカル）における ESD を進めていくことにより、グローカルマインドを醸成していくことが重要であると思われる。

また、日本の文化を支えてきた科学技術に関する教科においても、ESD の観点に立った教育活動を展開し、サイエンスマインド・環境マインドを育成する必要がある。つまり、上述のような背景や課題を踏まえて、子供達への ESD 活動の展開は、将来のグローバル社会で、真に持続性のある発展を目指すため、“感性の豊かなサイエンスマインドを有して環境を視野に入れながらグローカル”に子供達が成長していくことが重要であり、これらの人間力を有した児童・生徒達の成長が必要不可欠だと考える。

このような目的を達成するための本事業の活動の概念図を以下に示す。



独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

3　2015 年度の事業展開

2015 年度は以下のような事業展開をおこなった。

1）ワークショップ

日時：平成 27 年 6 月 14 日（日）13：30～16：30

場所：千葉市生涯学習センター　地階エッグホール

参加者：ASEAN の大学からの大学生、千葉大学生、高校生

概要：「感性を育む ESD 教育」の一環として、社会教育施設、青少年教育施設等との連携でワークショップを開催する。鳥笛をつくり演奏するプロセスを通して、グローバル・ローカルなアクティブ・ラーニングを展開し、音楽による交流を楽しむ。

ワークショップ「鳥笛」

2）学校見学と授業観察

日時：平成 27 年 6 月 16 日（火）9：00～12：00

場所：千葉大学教育学部附属中学校、小学校、幼稚園

参加者：ASEAN の大学からの大学生、千葉大学生

概要：日本の義務教育および幼児教育において、グローバルマインドの育成をしながら、ESD の基本要素の一つである環境への関心を醸成させるために、学校見学と授業観察を実施する。

附属幼稚園訪問

3）千葉大学・千葉県高等学校ユネスコスクール ESD 研究会

日時：平成 27 年 8 月 24 日（月）9：00～16：30

場所：千葉大学総合校舎 F10

参加者：千葉県ユネスコ協会連絡協議会各ユ協会員、高等学校教諭、幼小中学校教諭、教育委員会、教育関係者、社会教育関係団体、千葉大学生、高校生、一般市民

プログラム：

研修１　実践発表　「特別支援学校のユネスコスクール推進について」

発表者　千葉県立桜が丘特別支援学校教諭

研修２　シンポジウム　「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進」

コーディネータ　伊藤葉子（千葉大学教育学部教授）

シンポジスト　岩本渉（千葉大学エグゼクティブ・アドバイザー）

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

丸山英樹（国立教育政策研究所 国際研究・協力部 総括研究官）

生徒研修１　講演　「世界は１つの生命から始まった」

講師　村上和雄（筑波大学名誉教授）

生徒研修２　対談　「講演を聞いて、講師との対談」

生徒研修３　討論会　「持続可能な社会を推進するために私たちは何をなすべきか」

ファシリテータ　福田訓久（メディア総合研究所）

参加者　ユネスコスクール加盟校 13 校の生徒

４）ESD の推進のための教育研修

日時：平成 27 年 10 月 4 日（日）

場所：千葉大学教育学部 2111 教室

参加者：免許更新制講習受講者、教育委員会関係者、教員、社会教育関係団体、千葉大学生、高校生

概要：午前中は、海外からの ESD の研究者（Dr. Glenn Strachan）を招き講演を実施。免許更新制講習受講者に加え、上記のようにオープンに参加者を募る。午後は、免許更新制講習として、受講者に研修を実施。

５）コンソーシアム構成団体・ESD コーディネータ連絡協議会

日時：平成 27 年 10 月 12 日（月・祝）13：00～14：00

場所：千葉大学教育学部大会議室

参加者：コンソーシアム構成団体、ESD コーディネータ

概要：本事業のコンソーシアム構成団体・ESD コーディネータの連携を深め、千葉 ESD コンソーシアムのもとで、千葉県における ESD の地域展開のための協議をおこなう。

６）フォーラム

日時：平成 27 年 10 月 12 日（月・祝）14：15～17：00

場所：千葉大学教育学部 2111 教室

参加者：コンソーシアム構成団体の企業・団体、ASEAN の大学からの大学生、千葉大学生・教職員、高校生・教員、ユネスコ協会関係者、千葉県公民館連絡協議会関係者

概要：企業との連携をはかり、ESD の地域展開を進める。

７）学校見学と授業観察

日時：平成 27 年 10 月 14 日（水）9：00～12：00

場所：千葉大学教育学部附属中学校、小学校、幼稚園

参加者：ASEAN の大学からの大学生、千葉大学生

概要：日本の義務教育および幼児教育において、グローバルマインドの育成をしながら、ESD の

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

基本要素の一つである環境への関心を醸成させるために、まず、学校見学と授業観察を実施する。

８）成果発表会

日　時：平成 28 年 3 月 19 日（土）

場　所：千葉大学けやき会館

参加者：千葉大学生、高校生、ASEAN の大学からの教員、

概要：千葉大学生と高校生が、グローバル・ローカルなネットワークのなかで、ESD について学んだことをポスター発表する。

４　実施事業例の報告

前章の「６）フォーラム」について具体的に報告する。

（１）概要

本フォーラムは、高橋浩之教育学部長の挨拶で始まり、第 1 部では、企業による ESD に関する取組みについて 4 社の講演が行われた。第 2 部では、講演を行った 4 社に千葉県経営者協会を加えた 5 社・団体がブースに分かれ、各社・団体の ESD に関する取組みについて参加者と議論を深めた。最後に、小宮山伴与志教育学部副学部長の挨拶で閉会した。

ブースでの議論

講演会での質問

（２）第 1 部：千葉県の企業各社の ESD に関する取組みについての講演（100 分）

千葉県の企業関係者が、「金融」「農業」「工芸」「交通」といった多様な分野から、地域振興を指向した ESD の視点で各社の取組みを講演した。具体的な演目・演者は下記のとおりであった。

①「千葉銀行の CSR 活動に関する取り組み」（株）千葉銀行　広報 CSR 部　久保田麻友

②「ESD に関する食分野からのアプローチ」（株）諏訪商店　代表取締役　諏訪寿一

③「ESD に関する工芸分野からのアプローチ」（株）協同工芸社　代表取締役社長　箕輪晃

④「地域交通における旅客需要の創造～人口減少・高齢化社会における地域活性化としての交通事業の可能性」ビィー・トランセホールディングス（株）代表取締役　吉田平

例えば食品販売・開発を手掛ける企業による講演②では、演者である代表取締役自らが農家に学び

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ながらトウモロコシを栽培した点、自社で農場も運営している点、その農場でBLOF理論という生態系調和型農業理論に基づき無農薬で美味しい野菜を生産する試みを行っている点等が紹介された。

講演がASEANの大学からの大学生にも理解できるようにするため、通訳を配し、講演途中で逐次英訳を行った。演者の中には、自らも本フォーラムを国際コミュニケーション能力の向上に活用したいとの趣旨で、講演を英語で行った方もいた。その姿勢が呼び水となり、演者への質問を日本語と英語の両方で行う高校生も現れ、出席者一同を感嘆させた。質疑応答では、ASEAN の大学からの大学生より農業分野への銀行融資の日本での状況について、高校生からフードロスの問題や外国人を工芸分野の会社で社員採用する利点について、高校の校長から交通機関のエネルギー消費に関する問題について等、活発な質問・意見が出た。質疑応答は尽きることのない勢いだったが、時間の都合上、引き続き第2部で一層積極的な議論をお願いして切り上げた。

（３）第2部：千葉県の企業・団体と参加者によるESDに関する取組みについての議論（35分）

上記4社に（一社）千葉県経営者協会（産学交流事業担当部長　奥寺邦衛）を加えた5社・団体が各々ブースを設け、参加者は自身の関心ある分野のブースに足を運びESDに関する議論を行った。いずれのブースでも第1部での講演内容をふまえた活発な議論が展開され、総じて企業関係者は事後アンケートで、ASEAN の大学からの大学生と日本の高校生が貪欲に議論に参加する姿勢と質問のクオリティーの高さが特に印象的だった旨を回答していた。例えば食品販売・開発を手掛ける企業のブースでは、フードロスを減少させるために社会全体でいかに取り組むべきか議論されるとともに、農薬や遺伝子組換え作物の利用については、日本人からは否定的な意見が多かったが、ASEAN の学生からは肯定的な意見も出て、各自がこれまで持ち合わせなかった観点を学ぶ機会となった。

（４）閉会後

今回は単独で参加した複数の高校校長が、次回は自校の生徒も参加させたい、高校生にとって貴重な経験になると、本フォーラムを主催した筆者に伝えてきた。また、企業関係者への事後アンケートでは、第2部では大変有意義な議論ができ時間が足りなかったので、次回はより長時間設定してほしい旨の積極的な要望が述べられていた。さらに、高校生とASEANの大学からの大学生が、閉会後も名残惜しそうに話し込む様子が見られ、若い世代の国際交流の観点からも有意義なフォーラムになったと考えている。

５　グローバル人材育成に関するまとめ

本事業ではESDを軸にして活動を展開しているが、そのプロセスで気がついたいくつかの事項を述べることで、本論のまとめとする。これは、グローバル人材育成を進める上でも大切な事項だと考え

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ている。

まず、他の国の人々とコミュニケーションをはかる経験を通して、国際共通言語である英語を使って意思疎通をはかることが大切だと実感できるような場を設けることである。つまり、グローバル人材育成がイコール英語力を高めることにとどまるのではなく、さまざまな国の人たちとの相互交流や意見交換が楽しくて有益であると感じたことを英語力を高めることの動機付けに結びつけていきたい。たとえば、本事業のワークショップにおいて、ASEANの学生とともに鳥笛を作って演奏するアクティビティの際に、参加した高校生は必ずしも英語が堪能であったわけではないが、各グループでテーマを決めて演奏し披露する体験を通して、英語を学ぶ本当の意義を理解できたと感想に書いていた。なお、実際に、その後も英語による連絡をとりあうようになったということである。

もう一つは、多様性を理解すること・尊重することができるようにすることである。グローバルな見方ができるためには、国や地域による違いを理解し、尊重することが必要である。同時に、これらの見方が、自分の国や地域を別の角度から捉えさせ、その個別性を再認識し、大切にしていくという気持ちを持たせることにつながる。たとえば、ASEANの学生とともに学校訪問として千葉大学教育学部附属幼稚園に一緒にいった千葉大学生は、自分で上履きにはきかえる子どもたちや、砂場で楽しそうに遊ぶ子どもたちをみて、ASEANの学生から質問攻めにあう体験を通して、日常的に行われているいろいろなことが、日本が大切にしてきた学校文化の一つであることを再認識した。自分の身の回りのことを加齢とともに自分でするような指導をする一方で、自分の遊びを自分で決めるような自主性を育み、遊びを大切にしていることから、砂場を安全で清潔に保つような努力をしていることを確認できたからである。

また、この事業では、さまざまな人々が出会う場を設けるように工夫した。例えばフォーラムには、企業関係者、千葉大生、高校生、ASEANの学生等に参加を募った。その成果として、企業関係者からは国内外の若い世代の意見・態度に刺激を受けた旨の感想が聞かれ、日本の大学生・高校生とASEANの学生の間の交流も、企業各社が講演を通して提供したESDに係る活動がキーワードとなり、一層促進されたように見受けられた。

今、日本の国内でもグローバル化が進んでおり、グローバル人材育成は急務だと考える。グローバル・シティズンシップを育成するにあたっては、”Think globally, Act locally”が重要だと言われているが、 グローバル人材を育成することは、認識を変えるだけではなく、その後の実際の一人一人の行動に結びつけるような指標をもつことが大切だと考える。本事業では、ESDを主軸として展開しているが、参加者が、持続可能性のために何が自分にできるのかを考え、実行していくことを目指して活動を進めている。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

引用文献

神野真吾・伊藤葉子・中山節子・本多佐保美・山本純ノ介. (2013). 芸術教育による感性に働きかける ESD の構築.

Yoko Ito, Setsuko Nakayama. (2014). Education for Sustainable Development to Nurture Sensibility and creativity. International Journal of Development Education and Global Learning, 6(2), 5-25.

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.